

授業概要

人間文化学科の学生がどの領域においても必要とするリベラル・アーツの基本的な分野を平易な英語で理解することによって、それぞれの専攻する分野で必要となる、さらに高いレベルの英語に進むための基本を養成する。英文の読解、リスニング、会話の学習を通して基本的な語彙や表現を理解して覚え、応用できるようにする。また、単に英語力を高めるだけではなく、英語を学びながら教養を深め、多様な分野に関心を持てるように指導する。

授業計画

第 1 回	英語Ⅰの復習と英語Ⅱのオリエンテーション
第 2 回	Unit 11 英語で地理学（1）ウォームアップ ポキャブラリーチェック
第 3 回	Unit 11 英語で地理学（2）リーディング
第 4 回	Unit 11 英語で地理学（3）リスニング・オーラルプラクティス
第 5 回	Unit 13 英語で世界の問題を考える（1）ウォームアップ ポキャブラリーチェック
第 6 回	Unit 13 英語で世界の問題を考える（2）リーディング
第 7 回	Unit 13 英語で世界の問題を考える（3）リスニング・オーラルプラクティス
第 8 回	これまでのまとめと復習
第 9 回	Unit 14 英語で犯罪捜査（1）ウォームアップ ポキャブラリーチェック
第 10 回	Unit 14 英語で犯罪捜査（2）リーディング
第 11 回	Unit 14 英語で犯罪捜査（3）リスニング・オーラルプラクティス
第 12 回	Unit 15 英語で料理をしてみる（1）ウォームアップ ポキャブラリーチェック
第 13 回	Unit 15 英語で料理をしてみる（2）リーディング
第 14 回	Unit 15 英語で料理をしてみる（3）リスニング・オーラルプラクティス
第 15 回	これまでのまとめと復習
第 16 回	筆記試験

授業内容、進捗については、担当教員によって、あるいは遠隔授業時に若干変更されることがある。

到達目標

人間文化学科のどの領域においても必要となる英語の総合的な基礎的学力を養成する。英語の教員免許課程の科目を履修する者は、これによって中学校及び高等学校における外国語(英語)の授業に資する英語学的知見を身につける。

履修上の注意

授業には必ず英和辞典（電子辞書も可）を持参し、授業に積極的に参加すること。遅刻は受講態度においてマイナスとなる。

予習・復習

次の回に学ぶテキストの箇所を読んで、知らない語彙、表現を必ず辞書で調べておくこと。

語学力の養成には繰り返しが必要である。授業後には、授業中にとったノートとテキストを繰り返し書き、読み、繰り返し音声を聴き、発音して復習すること（音声データは出版社のサイトからダウンロードできる）。

評価方法

予習・復習の有無、随時行う小テスト、課題の提出などを受講態度として点数化し、筆記による定期試験の結果と合わせて評価する。評価方法は、担当教員によって、あるいは遠隔授業時に若干変更されることがある。

定期試験 70% 受講態度 30%

テキスト

- ・教科書名：『英語で学ぶリベラル・アーツ』
- ・著者名：上村淳子、アイリーン岩崎
- ・出版社名：朝日出版社
- ・出版年（ISBN）：2015年（978-4-255-15562-3）

授業概要

キャンパスライフで使う英語の語彙と表現を学習することによって、英語力の向上を目指す。長期休暇、発表、試験など、学生の日常生活を舞台にした会話、文章の読解、その理解を促す文法を学ぶことによって、英語の総合的な運用能力を高める。

授業計画

第 1 回	英語Ⅰの復習と英語Ⅱのオリエンテーション
第 2 回	Unit 8 道案内：ウォームアップ・オーラルプラクティス
第 3 回	Unit 8 道案内：グラマー・リーディング
第 4 回	Unit 9 プレゼン準備：ウォームアップ・オーラルプラクティス
第 5 回	Unit 9 プレゼン準備：グラマー・リーディング
第 6 回	Unit 10 生活費：ウォームアップ・オーラルプラクティス
第 7 回	Unit 10 生活費：グラマー・リーディング
第 8 回	Unit 11 語学研修：ウォームアップ・オーラルプラクティス
第 9 回	Unit 11 語学研修：グラマー・リーディング
第 10 回	Unit 12 試験勉強：ウォームアップ・オーラルプラクティス
第 11 回	Unit 12 試験勉強：グラマー・リーディング
第 12 回	Unit 13 期末試験：ウォームアップ・オーラルプラクティス
第 13 回	Unit 13 期末試験：グラマー・リーディング
第 14 回	Unit 14 長期休暇：ウォームアップ・オーラルプラクティス
第 15 回	Unit 14 長期休暇：グラマー・リーディング
第 16 回	筆記試験

授業内容、進度については、担当教員によって、あるいは遠隔授業時に若干変更されることがある。

到達目標

キャンパスライフで使う英語を学習することによって、英語の総合的な基礎力の再強化をはかる。

履修上の注意

授業には必ず英和辞典（電子辞書も可）を持参し、授業に積極的に参加すること。遅刻は受講態度においてマイナスとなる。

予習・復習

次の回に学ぶテキストの箇所を読んで、知らない語彙、表現を必ず辞書で調べておくこと。

語学力の養成には繰り返しが必要である。授業後には、授業中にとったノートとテキストを繰り返し書き、読み、繰り返し音声を聴き、発音して復習すること（音声データは出版社のサイトからダウンロードできる）。

評価方法

予習・復習の有無、随時行う小テスト、課題の提出などを受講態度として点数化し、筆記による定期試験の結果と合わせて評価する。担当教員によって多少の異同がある。評価方法は、担当教員によって、あるいは遠隔授業時に若干変更されることがある。

定期試験 70% 受講態度 30%

テキスト

- ・教科書名：『Let's Read Aloud & Learn English: On Campus 音読で学ぶ基礎英語（キャンパス編）』
- ・著者名：角山照彦、Simon Capper
- ・出版社名：成美堂
- ・出版年（ISBN）：2019年（978-4-7919-7182-4）

授業概要

国際化する日本の教育現場において、子どもの発達段階に応じた様々なテーマを踏まえた英語会話表現を学び、必要とされる英語語彙を身につけ、スキット再現する。なお且つ、基本文法項目についてのプラクティスを行うことにより基本文法を再確認する。各課のまとめとして学習した内容についての応用として幼保英検の対策指導と小模擬試験を実施する。これらのサイクルを習得することにより実践的な教育現場で必要な身の回りの物事を英語で表現できるように指導する。

授業計画

第 1 回	授業目標と教科書活用法（春期内容の復習）+Unit 8: Dos and Don'ts	幼保英検小模試 H
第 2 回	Unit 9: Let's eat lunch! (1) お昼を食べよう!	
第 3 回	Unit 9: Let's eat lunch! (2) お昼を食べよう!	幼保英検小模試 I
第 4 回	Unit 10: What do you want to do? (1) なにしたいの?	
第 5 回	Unit 10: What do you want to do? (2) なししたいの? J	幼保英検小模試
第 6 回	Unit 11: What do you have to do? (1) 何をしなければならないの?	
第 7 回	Unit 11: What do you have to do? (2) 何をしなければならないの? K	幼保英検小模試
第 8 回	Unit 12: I need to go potty (1) トイレに行きたい	
第 9 回	Unit 12: I need to go potty (2) トイレに行きたい	幼保英検小模試 L
第 10 回	Unit 13: Good job! (1) よくやったね!	
第 11 回	Unit 13: Good job! (2) よくやったね!	幼保英検小模試 M
第 12 回	Unit 14: Injuries and emergencies (1) ケガと緊急事態	
第 13 回	Unit 14: Injuries and emergencies (2) ケガと緊急事態	幼保英検小模試 N
第 14 回	Unit 15: We're going to go outside (1) 外であそぼう	
第 15 回	Unit 15: We're going to go outside (2) 外であそぼう	幼保英検小模試 O
第 16 回	筆記試験	

到達目標

教育現場での指導に関するテーマについて必要とされる英会話表現を学び、語彙・文法を復習し、英語でプレゼンテーションを行うことにより実践的かつ総合的な英語基礎力の強化をはかる。また、学習したことが実践の場で役立つことを実証するために幼保英検の小模擬試験を必要に応じて実施し、検定取得を目指す。グローバル化時代に応じた人材の育成を目標とする。

履修上の注意

1. 語学の学習には動機が重要であり、教育現場における声掛けや身の回りの物事を英語で表現する意欲を高めること、英語でコミュニケーションを取ろうとする姿勢が求められる。教科書に付随する音声 CD を何度も聴き、耳を慣らしリピートすることが必要となる。2. 語学の学習には忍耐が必要である。スポーツと同様に練習を重ねることで実力が身につくので最後まで諦めないこと。3. 語学の学習には間違いを恐れてはいけない。間違いを重ねれば自ずと英語力が身につく。以上 3 点を常に意識すること。「英語 I」履修者対象。

予習・復習

知らない語彙、新出表現は必ずその日に覚えるように努めること。また、何度も聴くこと、何度も発音することが通じる英語には必要なので、教室だけではなく、予習・復習には自宅でも声を出して発音すること。

評価方法

予習・復習の有無、授業参加意欲、プレゼンテーションを総合的に点数化し、定期試験の結果と合わせて評価する。

定期試験 50% 総合点 50%

テキスト

- ・教科書名：『Speaking of Childcare』
- ・著者名：Peter Vincent, Naoki Nakazato（著）
- ・出版社名：南雲堂（ISBN978-4-523-17883-5）

授業概要

大学生が商社に雇用され、同僚に挨拶し、備品を確認し、電話の対応をするまでの成長の過程において、ビジネスに必要な英語の語彙と表現を学ぶ。受講生が就職活動をするとき、さらには入社してから必須となる英語の知識を身につけられるようにする。

授業計画

第 1 回	英語Ⅰの復習と英語Ⅱのオリエンテーション
第 2 回	Unit 5: 英語で雇用条件を確認しよう（1）ボキャブラリービルディング・リスニング
第 3 回	Unit 5: 英語で雇用条件を確認しよう（2）オーラルプラクティス・ライティング
第 4 回	Unit 5: 英語で雇用条件を確認しよう（3）確認と復習
第 5 回	Unit 6: 英語で同僚に挨拶しよう（1）ボキャブラリービルディング・リスニング
第 6 回	Unit 6: 英語で同僚に挨拶しよう（2）オーラルプラクティス・ライティング
第 7 回	Unit 6: 英語で同僚に挨拶しよう（3）確認と復習
第 8 回	これまでのまとめと復習
第 9 回	Unit 7: 英語で備品を確認しよう（1）ボキャブラリービルディング・リスニング
第 10 回	Unit 7: 英語で備品を確認しよう（2）オーラルプラクティス・ライティング
第 11 回	Unit 7: 英語で備品を確認しよう（3）確認と復習
第 12 回	Unit 8: 英語で電話に出よう（1）ボキャブラリービルディング・リスニング
第 13 回	Unit 8: 英語で電話に出よう（2）オーラルプラクティス・ライティング
第 14 回	Unit 8: 英語で電話に出よう（3）確認と復習
第 15 回	これまでのまとめと復習
第 16 回	筆記試験

授業内容、進度については、担当教員によって、あるいは遠隔授業時に若干変更されることがある。

到達目標

ビジネスのさまざまな場面で用いられる英語の語彙と表現を習得することによって、英語の総合的な基礎力の再強化をはかる。

履修上の注意

授業には必ず英和辞典（電子辞書も可）を持参し、授業に積極的に参加すること。会話にも力点を置くので、物おしせず、面倒がらずにはっきりと発声すること。遅刻は受講態度においてマイナスとなる。

予習・復習

次の回に学ぶテキストの箇所を読んで、知らない語彙、表現を必ず辞書で調べておくこと。

語学力の養成には繰り返しが必要である。授業後には、授業中にとったノートとテキストを繰り返し書き、読み、繰り返し発音して復習すること。

評価方法

予習・復習の有無、随時行う小テスト、課題の提出などを受講態度として点数化し、筆記による定期試験の結果と合わせて評価する。評価方法は、担当教員によって、あるいは遠隔授業時に若干変更されることがある。

定期試験 70% 受講態度 30%

テキスト

- ・教科書名：『*Business Talk* やさしいオフィス英語』
- ・著者名：城由紀子、島田拓司、Edward J. Schaefer
- ・出版社名：成美堂
- ・出版年（ISBN）：1997年（978-4-7919-4711-9）